

2 令和5年度の取組報告

⑦ 山梨県とのお茶の学習交流

・総合的な学習の時間で学んだ「お茶」について、**山梨県内の学校で発表**

交 流 日	県内実施校	交流先	参加人数
11月17日(金)	裾野市立東小学校	富士吉田市立下吉田第二小学校	約220人
12月1日(金)	御殿場市立富士岡小学校	甲府市立池田小学校	約210人



富士吉田市立下吉田第二小学校での様子



甲府市立池田小学校での様子

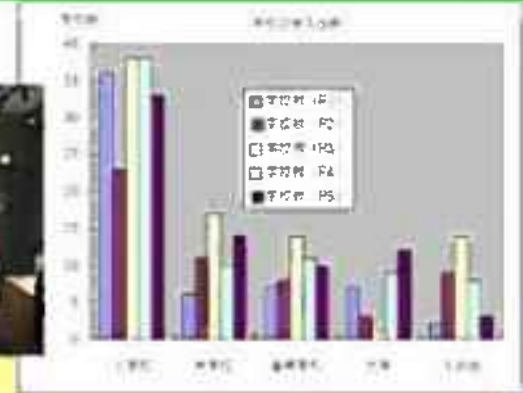
- ・本県児童が改めて静岡茶の魅力を実感するとともに、山梨県の児童にも静岡茶の歴史や文化を知ってもらう貴重な機会となるなど、双方とも静岡茶の認識が高まった。
- ・令和6年度と7年度の2年間も交流を継続する予定。

2 令和5年度の取組報告

⑧ ふじのくに茶の都ミュージアムにおける活動(1)

小中学校の施設見学の受入

- ・施設見学や体験学習を積極的に受け入れており、小中学校44校 1,481名が来館(予定含む)
- ・学校向けのプログラム(①全体説明②展示説明③子ども向けワークシート)の実施
- ・R6年度から静岡茶のいれ方体験の団体受入を実施(現在は、茶道体験と茶摘み体験のみ)



教員のための博物館の日

- ・教員が学習資源として校外学習等での博物館活用を推進するため、国立科学博物館が主導で全国展開する事業
- ・茶の都ミュージアムでは、学芸員による展示解説、茶摘み、茶道、お茶のいれ方、茶ミューキットなどを実際に体験(R4年度～)
- ・R5年度は健康体育課との共催(参加者19人)



- ・茶の都ミュージアムで、実際に見て体験することができ、茶を学ぶ機会が充実
- ・まずは教員にミュージアムを体験する機会を設けることで利用を促進

2 令和5年度の取組報告

⑧ ふじのくに茶の都ミュージアムにおける活動(2)

学校への茶ミューキットの貸し出し

- ・来館が難しい遠方の学校やお茶の学習を行う学校等を対象に、お茶の学習教材の貸し出しを実施(無料)
- ・実際に茶葉を見たり香りを確かめながら学習が可能
- ・令和5年度貸出し実績は**18件**、令和4年度の11件から増加



静岡茶を学ぶ子ども向け動画教材を作成

- ・教員の意見に基づき、学校向けオンライン授業を動画製作に変更
- ・要望のあった「静岡茶の発展の歴史や茶産地」を学ぶ動画を作成(今後、日本や世界のお茶の種類や喫茶文化などコンテンツを追加)
- ・R6年度は総合的な学習の時間やミュージアム来館前の予習等に活用できるように**動画等の教材をHP内「デジタル学習コンテンツ」に集約**



- ・「茶ミューキット」の貸し出しで、来館が難しい学校でも活用可能なコンテンツが充実
- ・学校が自由に選んで利用できる「茶を学ぶ動画教材」を充実

2 令和5年度の取組報告

⑨ 小中学生向け茶競技会「Cha-1グランプリ」の開催(1)

【前回からの主な変更点】

- ・予選会・本戦とも対面式で実施(会場はふじのくに茶の都ミュージアムを使用)
- ・参加者は県内小中学生に限定(世界お茶まつり開催年ではないため)

【開催内容】

区分	内容
日程	令和5年11月11日(土)
会場	ふじのくに茶の都ミュージアム(島田市金谷富士見町)
対象者	県内在住の小中学生
申込者	23人(小学生20人、中学生3人)
予選	お茶クイズ(全50問) ※上位8名が本戦に出場
本戦	1 お茶クイズ(全30問) 2 外観による茶種当て(全6問) 3 闘茶(飲用による茶種当て)(全3問)



募集チラシ

2 令和5年度の取組報告

⑨ 小中学生向け茶競技会「Cha-1グランプリ」の開催(2)



予選(お茶クイズ)



本戦(闘茶の様子)



表彰式



茶種を見分ける本戦進出者ら 島田市のふじのくに茶の都ミュージアムで(県提供)

掛川の山下さんが「Cha-1」優勝
島田、小中生飲み当て
県内の小中学生がお茶の飲み当てなどで競う大会

茶ばなし

中日新聞
(11/19)

「Cha-1(チャワン)グランプリ」(県主催)が、島田市であった。優勝は掛川市中央小4年の山下諒大さん、2位は同市城東中2年の陸田悠里菜さん、3位は藤枝市西益津小6年の伊藤凜起さんだった。大会には菊川市、川根本町など7市町から小学生20人と中学生3人が出場。予選は茶の歴史や産葉など50問のクイズで競い、上位8人が本戦に進んだ。本戦はクイズに加え、煎茶や紅茶などを見分けたり、異なる品種を飲み当てたりした。(松本利幸)

2 令和5年度の取組報告

⑨ 小中学生向け茶競技会「Cha-1グランプリ」の開催(3)

ふじのくにジュニアお茶マイスターに関する知事認証制度の創設

【制度の概要】

項目	内容
目的	児童生徒が自発的に静岡茶を愛し、毎日の習慣として静岡茶を飲み、さらには成人後も茶への関心を持ち、その習慣を継続してもらうことにより、持続的な静岡茶のファン拡大を図る
認定条件	・Cha-1グランプリに参加 ・レポートの提出
認定者数	33人(高校生2人、中学生10人、小学生21人) ※過去の参加者含む
活躍の場	・県イベント(茶M夏休みイベント等)での協力 ・茶関係団体の機関誌等での執筆 ・地域でのお茶イベントや市町行事での活用



【参加者の感想(Cha-1グランプリで学んだこと、活かしていきたいことなど)】

- ・家族や友達に話して、お茶の良さを多くの人に知ってもらいたい
- ・お茶の歴史を深く知れた。日常生活の中で緑茶をもっと取り入れていきたい
- ・日本茶インストラクターの資格を取得して、全国の人にお茶の良さを伝えたい
- ・お茶のいれ方などをもっと意識して、自分に合ったお茶を見つけたい 等

2 令和5年度の取組報告

⑨ 小中学生向け茶競技会「Cha-1グランプリ」の開催(4)

課 題	今後の取組(事務局案)
・参加者の拡大	○参加しやすい大会方式への変更 <ul style="list-style-type: none">・夏休み期間中の開催・オンライン参加の推進・複数会場による予選会の実施
・お茶を学ぶ教育的効果の工夫	○学習効果の充実 <ul style="list-style-type: none">・デジタル教材の有効活用・自由研究テーマによるお茶学習の動機付け・学校・クラス単位等の団体参加型取組の推進
・ふじのくにジュニアお茶マイスターの活用	○定期的な活躍機会の創出 <ul style="list-style-type: none">・茶の都ミュージアムやしずおかO-CHAプラザでの呈茶補助等 ○学校等との連携 <ul style="list-style-type: none">・地域でのお茶イベントや市町行事での活用

2 令和5年度の取組報告

⑩ その他

○お茶の機能性短編動画の制作(3本)



【家族編・風邪の予防等】



【お出かけ編・口臭予防等】



【運動編・肥満の防止等】

○静岡市立城北小児童を対象にした「お茶の学習会」

栽培、加工… お茶づくり知ろう

県退職校長親和会(池田重夫会長)はこのほど、静岡市葵区の城北小児童を対象にした「お茶の学習会」を同校で開催した。会員の特技を生かした学校支援活動の一環。同校で校長を務め、現在茶生産に励む志村明彦事務局長(63)が講師役となり、3年生約100人にお茶生産の仕事内容や魅力を紹介した。

葵区梅ヶ島で家族と茶生産を行う志村さんは市内茶産地や年間の生産スケジュールを示した後、霧を防止するファンや

城北小で「授業」
元校長の生産者

肥料、病害虫から守る消毒作業などお茶づくりの工夫を解説した。

実家の茶畑で摘んできた茶葉を児童に配り、「一芯二葉」の摘み方も説明。茶葉を煎茶にする製茶工場での工程を動画で紹介し、「もっと勉強してお茶博士になってほしい」と呼びかけた。

参加した児童は「いろんな人が苦労してお茶をつくっていると分かった。大好きになった」などと話した。



茶の生産工程などを紹介する志村さん
— 静岡市葵区

令和5年6月2日 静岡新聞

協議事項

① 令和4年度県民会議の意見等に対する対応(1)

(1) 通年での静岡茶愛飲に向けた意見等に対する対応

意見内容	対応
通年での静岡茶愛飲の定着には、「マイボトル持参運動」の強化が重要	・静岡茶講座の実施(児童生徒及び保護者向け) ・お茶に関するコラムの掲載 ・分かりやすく気軽に見れる機能性短編動画の制作
水筒の中身を決める保護者に、お茶を身近に感じてもらい、愛飲への理解・協力を求めていくことが必要	
茶商は小中学生を消費者として育てていくことを考えなければいけない	
お茶の無償提供に代わる対策	
お茶は子どもにも身近なものではないため、体験等を通じてお茶の魅力を知らせてもらうことが必要	・静岡茶食育デジタル教材の製作、配布 ・茶器の提供 ・ふじのくに茶の都ミュージアムの利活用(施設見学の受入、教員のための博物館の日)
お茶の愛飲を習慣にまで持っていくにはかなりハードルが高いと感じている	

協議事項

① 令和4年度県民会議の意見等に対する対応(2)

(2) 静岡茶の食育機会の確保に向けた意見等に対する対応

意見内容	対応
アフターコロナでは、リアル体験とデジタル教材の組合せが重要	・栄養教諭等食育担当者研修会の実施 ・静岡茶食育デジタル教材の製作、配布
茶産地と茶産地でない地域の児童生徒がリモート等で交流することも効果的	・山梨県とのお茶の学習交流
新たな認定制度は、多くの児童生徒が参加しやすい制度が望ましい	・Cha-1グランプリへの参加 ・レポートの提出
認定後の活動の場やお茶に関わりを持ってもらうことが重要	・茶の都ミュージアム友の会の入会 ・茶の都ミュージアムイベントでの活用(R6以降)
飲むだけでなく食べるレシピを工夫すれば親しみやすくなる	・静岡茶の愛飲に関する取組事例集の活用促進 (お茶を使った学校給食レシピ)
静岡茶の食育カリキュラムを学校教育の中に組み込むことも大事	・静岡茶食育カリキュラム事例集の作成
取組を点から線、線から面にしていくためには、地域、行政、学校、茶業界が一体となって取り組むことが大事	・茶生産者と学校が連携した「お茶の学習会」の実施

協議事項

② 課題に対する今後の取組(案)

課 題	今後の取組(事務局案)
・通年での静岡茶の愛飲促進(茶葉の無償提供に頼らない取組)	<ul style="list-style-type: none">○「マイボトル持参運動」の定着・拡大<ul style="list-style-type: none">・動画やおたより等による家庭への働きかけの強化(お茶の機能性や簡易的でおいしい冷茶の作り方等の紹介)○取組率が低い地区と茶産地による交流支援<ul style="list-style-type: none">・茶業関係者の協力のもと、講座等の充実・山梨県との学習交流による教育効果の実証
・教員や保護者の愛飲への理解促進(学校、家庭、茶業関係者の連携)	<ul style="list-style-type: none">○ふじのくに茶の都ミュージアムの利用促進<ul style="list-style-type: none">・「教員のための博物館の日」等、茶の都ミュージアムでの体験機会の拡充○静岡茶の食育の支援体制づくり<ul style="list-style-type: none">・農水省「茶育」プロジェクトの活用・静岡茶食育カリキュラム事例集の活用促進

- ・通年での静岡茶の愛飲促進
- ・静岡茶の食育機会の確保